マイウェイ my way

伊藤製作所社長

伊藤　澄夫　20

英文科卒を金型技術者に

技術と語学

海外に旅行や業務で出かけた日本人の語学力の低さに、現地の人は驚きを隠さない。特にアジアの人々は日本を先進国、高学歴、信頼できる、マナーが良い、などと高く評価している。それにもかかわらず英語が話せない日本人の多いことを不思議に思っているのだ。

中進国で海外に出るものは選ばれた人たちだ。従って英語を話せない者はほとんどいない。アジア諸国の企業で部長以上の肩書きのある者は全て英語を話せる。当社のインドネシア事業所の大学卒は全員英語を話せるため、日本人を含めた会議が英語で出来ることで予想以上に良いコミニュニケーションが取れている。

私は日本人の英語力の低さに対して、外国人に次のように弁解している。「日本はいかなる文献や教科書も日本語でそろっているため、英語を理解しなくても勉強ができる。フィリピンにはタガロク語で書かれた文献が少ないので英語を学ばなければ勉強ができない。日本で勉強や生活するのに外国語は全く必要ないが、このような国は世界的に見て極めて少ないのだ」と。奥ゆかしくてシャイな性格も不利になっている。その意味で近年、小学校から英語の授業が始まったと聞くが、これは非常に良いことだ。

手前右から2人目が西川君

『モノづくりこそニッポンの砦』を出版したのは2004（平成16）年の4月だった。この著書は出版社の工業調査会が廃業したため、当社のホームページで、無料でお読みいただける。第5章「日本企業にとってのアキレス腱は語学」で述べたことを紹介したい。

一般的には金型製作は理工系とされているが、普通科高校卒などでも優秀な技術者に育つ例も多い。私は、理工系卒が技術全般を取得してから語学を学ぶより、英文科卒に金型製作の教育をする方が短期間で海外にて活躍できるのではないかと考えた。当社の海外事業は2カ国となり、海外との距離が近くなった。海外子会社との技術や合理化、品質管理、受発注などの打ち合わせは全て英語で行っている。

著書で述べてから十数年が経ち、南山大学外国語学部英米学科を卒業した西川真周君が入社した。海外で活躍するには技術力と管理力、語学力の3要素が必須である。教育プログラムに沿って幅広い技術や管理を習得し、今後、大きく羽ばたくことを期待している。